

平成29年度第3四半期「景気動向調査」結果報告

製造業では持ち直しの動き、 非製造業では足踏み状態

コメント:

【製造業】

売上高において、対三カ月前比のD I 値は▲2.2から6.4回復し4.2に改善。4期連続の回復になった。今回の調査でマイナス値からプラス値へ転換し、緩やかに回復の動きがみられる。対前年同期比と三カ月後予測では小さな悪化幅で、緩やかに下落した。

景況感において、対三カ月前比のD I 値はほぼ横ばいの▲10.4であった。前回調査の大幅回復から緩やかな回復に留まった。対前年同期比は▲22.9に下落。3期連続の回復から一転して、悪化をみせた。三カ月後予測でも▲18.8に下落した。

人手の状況について、人手不足を感じる事業所は合計63%と半数以上を占めた。採用活動を行っている事業所は約半数で、その内、「採用活動を行ったところ、ほぼ充足できた」と回答したのは17%となった。

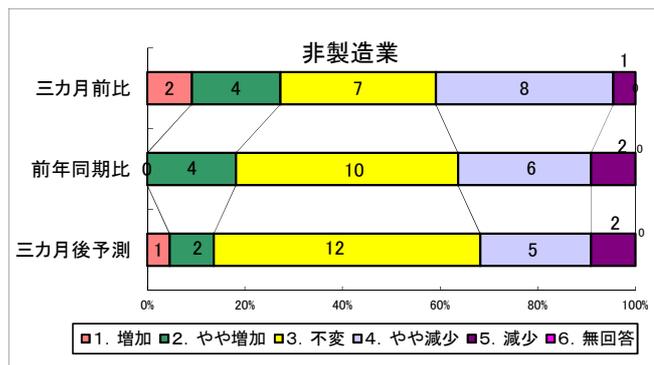
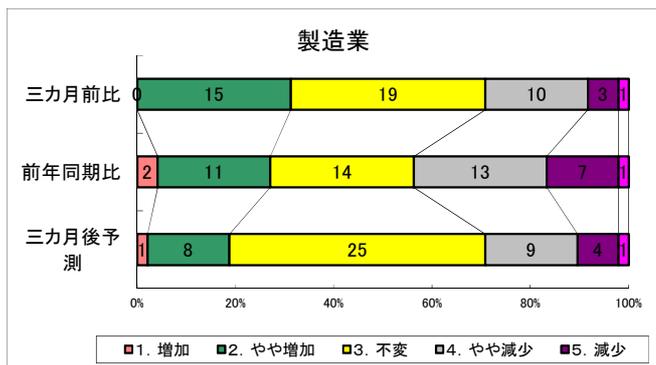
【非製造業】

売上高において、対三カ月前比のD I 値は僅かに悪化し▲13.6に下落。対前年同期比と三カ月後予測でも悪化し両項目とも▲18.2に下落した。売上高は悪化しているものの、まだ低い水準ではない。

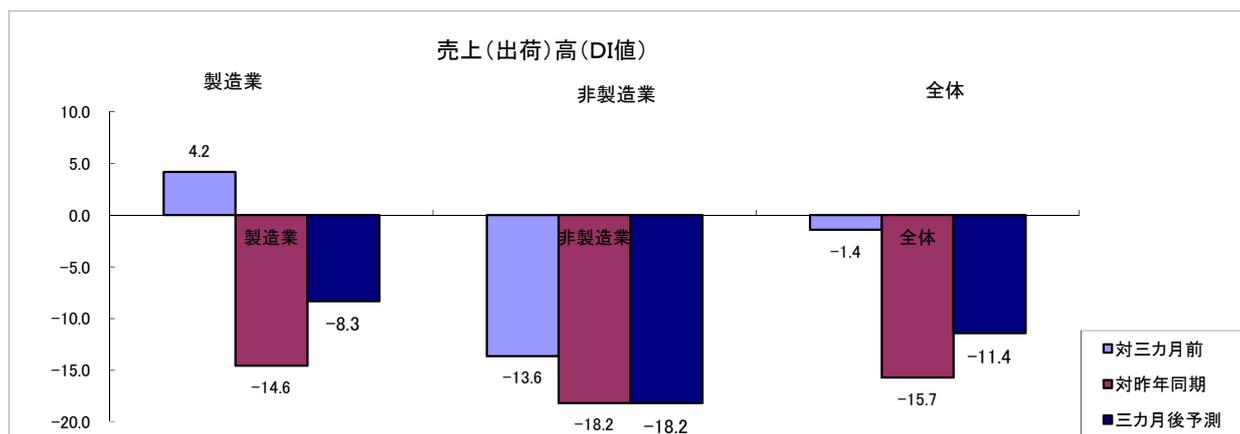
景況感において、対三カ月前比のD I 値は▲33.3から19.7大幅に回復し▲13.6に改善した。対前年同期比でも▲25.0から6.8回復し▲18.2に改善した。一方、三カ月後予測では▲18.2に下落。景況感はマイナス値を縮小させる動きがみられた。

人手の状況について、人手不足を感じる事業所は合計59%と製造業同様に半数以上を占めた。採用活動を行っているのが50%とちょうど半分であった。その内、「採用活動を行ったところ、ほぼ充足できた」と回答したのは9%と製造業に比べてやや低い結果になった。

1. 貴社の売上(出荷)額について



DI値	対三カ月前	対昨年同期	三カ月後予測	対三カ月前 (前回)	対昨年同期 (前回)	三カ月後予測 (前回)
製造業	4.2	-14.6	-8.3	-2.2	-10.9	-4.3
非製造業	-13.6	-18.2	-18.2	-12.5	-4.2	-4.2
全体	-1.4	-15.7	-11.4	-5.7	-8.6	-4.3

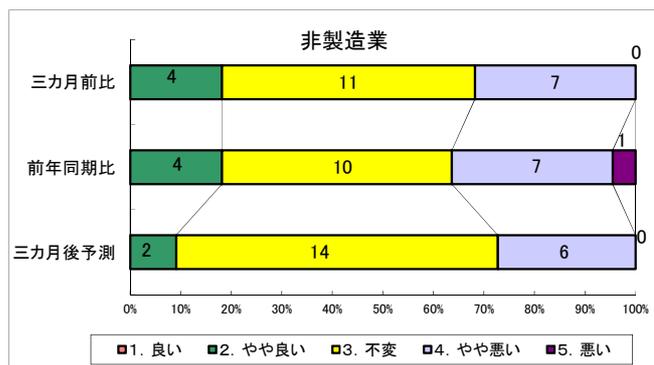
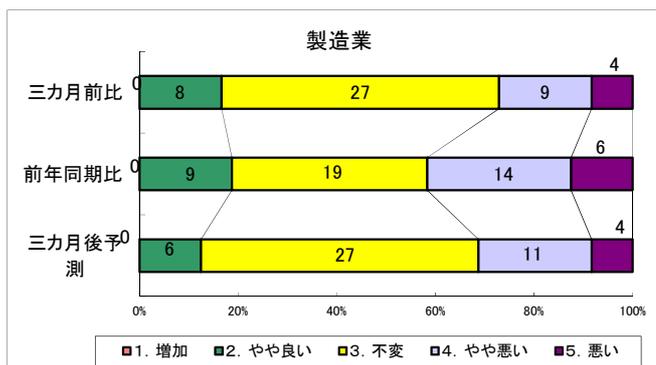


対三カ月前比において、製造業ではDI値が▲2.2から6.4回復し4.2に改善。4期連続の回復になった。今回の調査でマイナス値からプラス値へ転換し、緩やかに回復の動きがみられる。非製造業では▲12.5から1.1悪化し▲13.6に下落した。僅かな悪化ではあるが、2期連続の下落となった。

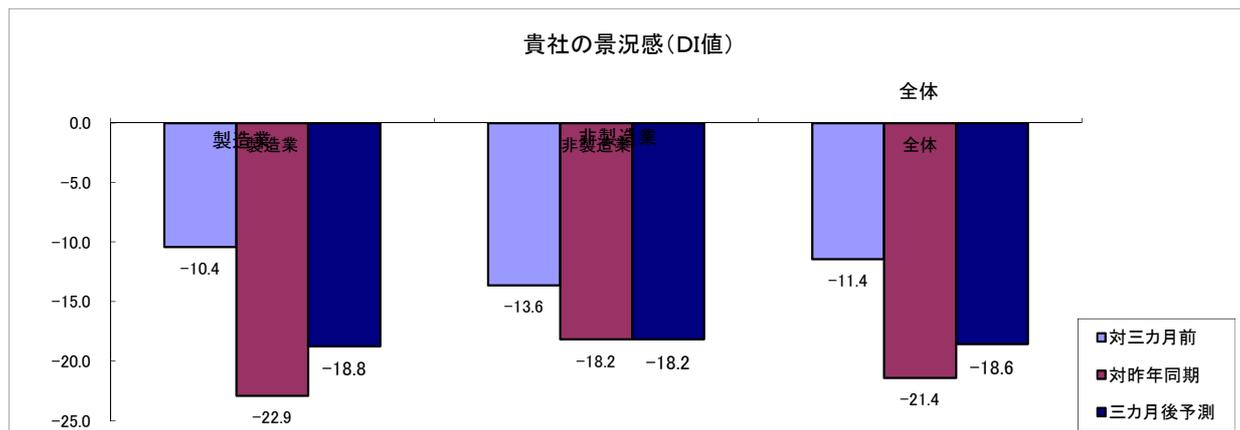
対前年同期比において、製造業では▲10.9から3.7悪化し▲14.6に下落した。非製造業では▲4.2から14.0大幅に悪化し▲18.2に下落した。回復の兆しを見せた前回調査から一転して、製造業、非製造業で差があるものの、両業種とも悪化をみせた。

三カ月後予測において、製造業では▲4.3から4.0悪化し▲8.3に下落した。3期連続の下落と見通しが悪化傾向にあるが、さほど低い水準にはなく慎重な見通しである。非製造業では▲4.2から14.0大幅に悪化し▲18.2に下落した。

2. 貴社の景況感について



DI値	対三カ月前	対昨年同期	三カ月後予測	対三カ月前 (前回)	対昨年同期 (前回)	三カ月後予測 (前回)
製造業	-10.4	-22.9	-18.8	-10.9	0.0	-10.9
非製造業	-13.6	-18.2	-18.2	-33.3	-25.0	-4.2
全体	-11.4	-21.4	-18.6	-18.6	-8.6	-8.6



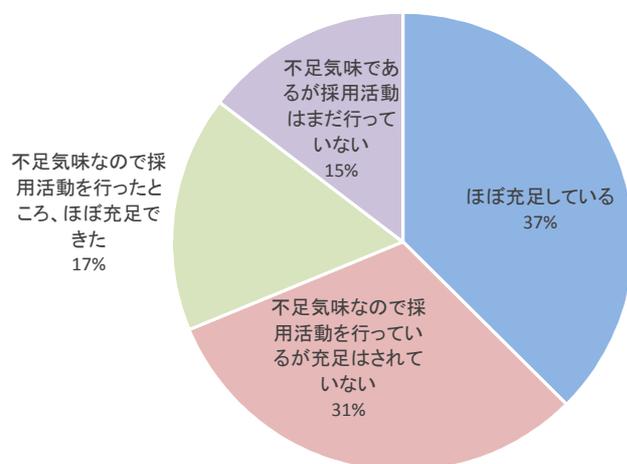
対三カ月前比において、製造業ではDI値が▲10.9からほぼ横ばいの▲10.4に改善した。前回調査の大幅回復から緩やかな回復に留まった。プラス値に移転していけるか今後の調査が期待される。非製造業では▲33.3から19.7大幅に回復し▲13.6に改善した。

対前年同期比において、製造業では0.0から大幅に悪化し▲22.9に下落した。3期連続の回復から一転して、悪化をみせた。非製造業では▲25.0から6.8回復し▲18.2に改善した。製造業と非製造業で景気動向に差が出る結果となった。

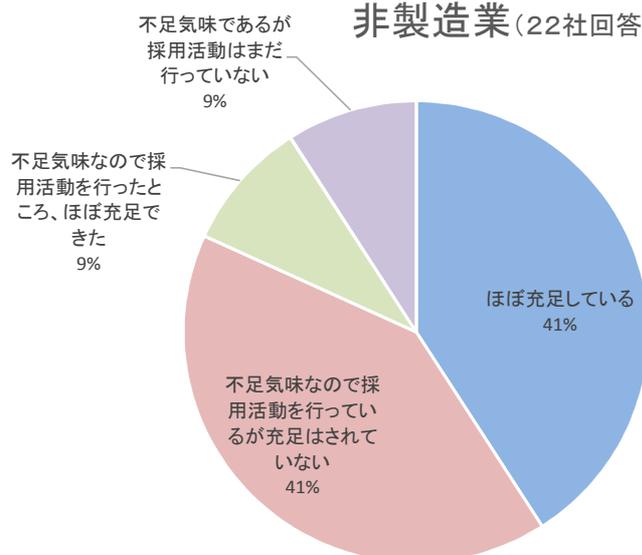
三カ月後予測において、製造業では▲10.9から7.9悪化し▲18.8に下落した。4期連続の下落と厳しい見通しが続いている。非製造業では▲4.2から14.0悪化し▲18.2に下落した。直近2回の調査では回復傾向であったが、厳しい見通しに転じた。

3. 人手の状況について(単一回答)

製造業(48社回答)



非製造業(22社回答)



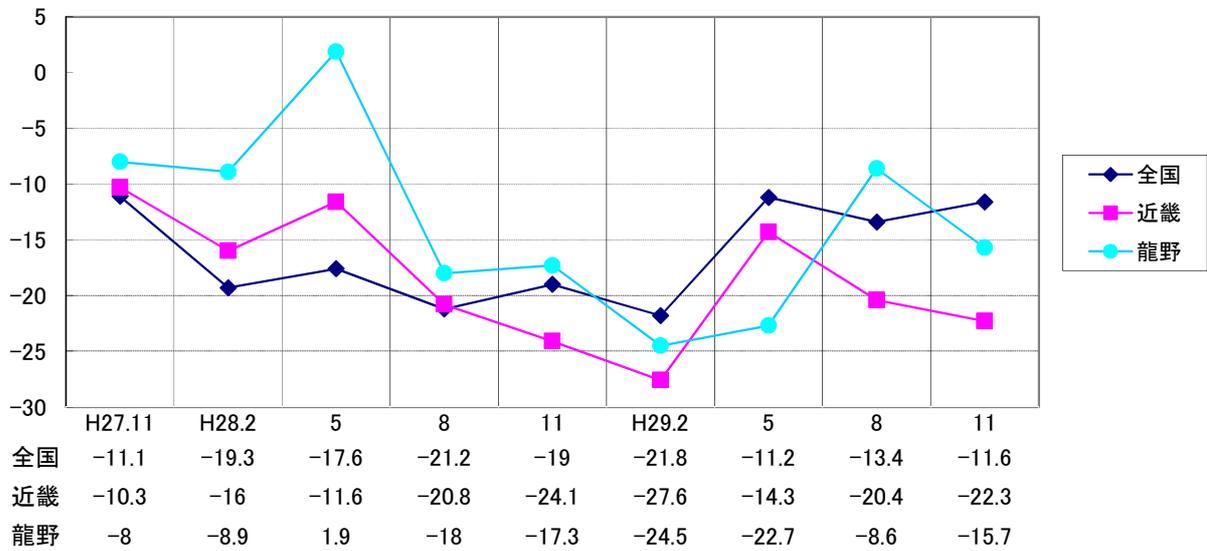
製造業では「技術者を入れて従業員を教育したいが、技術者の人材がいない」といった回答があった。人手の状況で不足気味な事業所は合計63%(30社)と半数以上を占めた。採用活動を行っているのが48%(23社)と約半数であった。その内、「採用活動を行ったところ、ほぼ充足できた」と回答したのは17%(8社)となった。

非製造業では人手が不足気味な事業所は合計59%(13社)と製造業同様に半数以上を占めた。採用活動を行っているのが50%(11社)と半数であった。その内、「採用活動を行ったところ、ほぼ充足できた」と回答したのは9%(2社)と製造業に比べてやや低い結果になった。

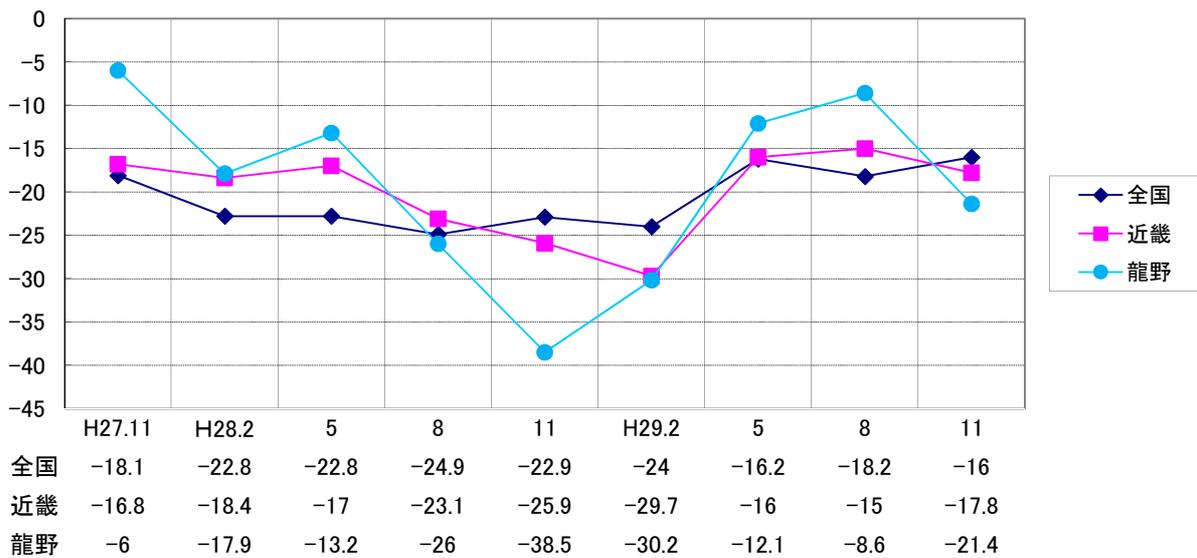
少子高齢化を実感し人材不足に危機感があると答えた事業所が見受けられた。

全国・近畿ブロック調査との比較

売上(出荷)額 対前年同期比



景況感 対前年同期比



全国・近畿ブロック別調査………日本商工会議所実施のLOBO(早期景気観測)調査
 ※H29. 11の数値は10月度実施分を掲載

調査概要

1. 調査目的 四半期ごとに景気動向調査を実施し、管内景況を恒常的に把握する。
調査を実施し恒常的に管内景況を把握する。
2. 調査期間 平成29年10月23日(月)～11月8日(水)(基準日11月1日)
3. 調査方法 FAXにより依頼、回答
4. 調査対象 各役員議員、部会役員、地区振興委員、青年部、女性会 130社

※DI値＝「好調＋やや好調」(持ち直す)の回答割合から「悪い＋やや悪い」(悪化する)の回答割合を差し引いたもの。数値が高いほど景況感が良く、低いほど悪い。
プラス100が最高値、0が平均、マイナス100が最低値を示す。

5. 対象企業の属性

所属部会	対象数
一般工業	28
建設業	21
醤油工業	7
食品工業	12
皮革工業	15
公益業	16
サービス業	12
商業	19
合計	130

調査対象	対象数	回答数	回答率
製造業	83	48	57.8%
非製造業	47	22	46.8%
合計	130	70	53.8%